

めぐみイエス・キリスト教会

2024年3月24日(日) 第四主日礼拝

午前10時より

週報「通算第700号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】	
【賛美Ⅰ】	新聖歌108「丘に立てる荒削りの」p. 150
【交読文】	No.40 詩篇第126篇 p. 911
【賛美Ⅱ】	新聖歌127「墓の中に」 p. 453
【使徒信条】	
【主の祈り】	
【先週説教】	
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.1「復活の日の朝」
【聖書朗読】	マタイ21章1節～11節・27章22節～23節)
【礼拝説教】	《シュロの日曜日と十字架》
【聖餐式】	
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235
【平和祈り】	
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85
【祝祷後奏】	

※本日の聖書箇所（マタイ21章1節～11節・27章22節～23節）

21:1 さて、一行がエルサレムに近づいて、オリーブ山の麓のベテパゲまで来たそのとき、イエスはこう言って、二人の弟子を遣わされた。

21:2 「向こうの村へ行きなさい。そうすればすぐに、ろばがつながれていて、一緒に子ろばがいるのに気がつくでしょう。それをほどいて、私のところに連れて来なさい。

21:3 もしだれかが何か言ったら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。すぐに渡してくれます。」

21:4 このことが起こったのは、預言者を通して語られたことが成就するためであった。

21:5 「娘シオンに言え。『見よ、あなたの王があなたのところに来る。』

『』
21:6 そこで弟子たちは行って、イエスが命じられたとおりにし、
21:7 ろばと子ろばを連れて来て、自分たちの上着をその上に掛けた。そこでイエスはその上に座られた。
21:8 すると非常に多くの群衆が、自分たちの上着を道に敷いた。また、木の枝を切って道に敷く者たちもいた。
21:9 群衆は、イエスの前を行く者たちも後に続く者たちも、こう言って叫んだ。「ホサナ、ダビデの子に。祝福あれ、主の御名によって来られる方に。ホサナ、いと高き所に。」
21:10 こうしてイエスがエルサレムに入られると、都中が大騒ぎになり、「この人はだれなのか」と言った。
21:11 群衆は「この人はガリラヤのナザレから出た預言者イエスだ」と言っていた。

27:22 ピラトは彼らに言った。「では、キリストと呼ばれているイエスを私はどのようにしようか。」彼らはみな言った。「十字架につける。」
27:23 ピラトは言った。「あの人がどんな悪いことをしたのか。」しかし、彼らはますます激しく叫び続けた。「十字架につける。」

●ポイント1. 「シュロの日曜日の予言」とは？

※ゼカリヤ書9章9節「紀元前500年頃の預言から」 (旧約p.1621)

9:9 娘シオンよ、大いに喜べ。娘エルサレムよ、喜び叫べ。見よ、あなたの王があなたのところに来る。義なる者で、勝利を得、柔和な者で、ろばに乗って。雌ろばの子である、ろばに乗って。

※詩篇118篇27節「神の恵みの賞賛の詩篇から」 (旧約p.1059)

118:27 主こそ神。主は私たちに光を与えられた。枝をもって祭りの行列を組め。祭壇の角のところまで。

●ポイント2. 「主に留まること」とは？

※ヨハネの福音書15章4節～10節「最後の晩餐後」(新約p.215下段)

◎先週の礼拝メッセージ【ナザレの人々の反応】

《「あなた方が耳にした通り、今日この聖書の言葉が実現しました。」これは、ご自身こそが、メシアであることを公にされた瞬間なのです。「きっとあなたがたは、『医者よ、自分を治せ』ということわざを引いて、『カペナウムで行なわれたと聞いていることを、あなたの郷里のここでもしてくれ』と言うでしょう。」

ここから、主イエスがカペナウムにおいて、奇跡やしるしを行なわれ、また、ナザレの人々は、そのことを知っていたことが分かります。「まことに、あなたがたに言います。預言者は誰も自分の郷里では歓迎されません。」この後、主イエスは、エリヤに起こったことと、エリシャを通して行なわれたことの二つの例をあげて、その時代のユダヤの人々の不信仰と、故郷ナザレの人々の不信仰を明らかにされます。

エリヤの時代では、「3年6ヶ月の間、天が閉じられ」たとありますが、今度は、主イエス様の働きを通して、3年6ヶ月の間、天が開かれることを暗示しています。ここに公生涯の期間が明示されています。

「これを聞くと、会堂にいた人たちは皆憤りに満たされ」たとあります。そして、何と全員で主イエスを、会堂から町の外に追い出し、丘の崖の縁まで連れて行き、そこから突き落とそうとしたのです。また、もしこの時、弟子たちがお供していたら、どうなっていたことでしょうか。おそらく、故郷ナザレの人々と激しい衝突が起こったに違いありません。

さて、崖の前にまで追い詰められた主イエスは、不思議な方法でそこから立ち去って行きます。ところで、なぜ故郷ナザレの人々はこのような反応をしたのでしょうか。それはイザヤに与えられた預言が成就したからです。『「行って、この民に告げよ。『聞き続けよ。だが悟るな。見続けよ。だが知るな』と。ここで、私たちに教えられている事は何でしょうか。それは、不信仰からは何も生まれないと言う事です。』

お知らせ

※次回は3月31日(日)、イースター礼拝となります。特別メッセージをします。礼拝終了後、簡単なお食事会を行ないます。